



金城学院幼稚園

No. 15



11月は父母の会活動として、講演会、大掃除、伝道週間の証礼拝などのご計画、ご奉仕をいただき、ありがとうございました。

吉村真理子先生の講演「平和をつくる子ども」のお話と先生の読み聞かせを通し、差別や偏見、権威や権力を持たない子ども達こそ、平和を作る存在であること、子ども達がつい言ってしまう嘘の中にも良い行いをしたい、喜ばせたいと子どもなりの平和を願う心があることにハットさせられました。私たちはその平和の使者として子ども達を育てていく大切な責任を神様からいただいているのです。戦前・戦中・戦後を子ども達の傍らで過ごされた先生だからこそ、真に強く平和を求めなくてはいけないと言う説得力を持って話されました。

長年キリスト教保育の現場で子ども達、保護者、保育者と関わられた先生は91歳にして誰よりも子ども心を持たれた、ユーモアあふれる方でした。次の日の研究会のため、夕方には飛行機で松山市へと飛び立たれました。

さて、キリスト教会では12月2日よりアドベント（キリストの待降節）礼拝を迎えます。幼稚園では12月17日・18日のクリスマスまでの3回の合同礼拝をアドベント礼拝としてロウソクを一本ずつ灯して礼拝いたします。

クリスマス讃美礼拝では聖書に基づいたイエス・キリストの誕生の場面を再現し行います。年長児の担う役柄も、年中児の聖歌隊も、年少児の役柄も、（にじ組はクラス礼拝です）皆礼拝を担う奉仕者です。そして保護者お一人お一人には“神様を賛美する役”を担っていただきます。子ども達に負けず心こめて賛美いたしましょう。保護者の讃美歌練習にどうぞご協力ください。

厳粛な中に、喜び溢れるクリスマス礼拝を迎えられますように。

Noriko



「彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。」

(マタイによる福音書2章9～10節)

イエス様がお生まれになったとき、遠い東の国からはるばると旅をしてきた占星術の学者たちがいました。彼らは、夜空の星を見て、救い主の誕生を知りました。そして、その星に導かれて、ユダヤのベツレヘムに生まれたイエス様のもとにまでたどり着いたのです。聖書はこのように告げています。

「東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。」

「ついに幼子のいる場所の上に止まった。」とあります。「ついに」という言葉から、学者たちの長い長い旅を連想させられます。それは夜空の星に導かれての旅でありますから、夜の旅であります。暗さの中の旅であります。彼らは救い主に出会えることを信じて、あえてそのような旅に出たのであります。そして、ついにその星が、幼子のいる場所の上に止まったとき、彼らは喜びにあふれました。家畜小屋の中には、生まれたばかりのみどり子が布にくるまれて、飼い葉桶の中に眠っていたのです。彼らはまずひれ伏して拝み、持ってきた宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物として赤ん坊のイエス様に献げました。

確かに人生にはいろいろな喜びがあります。手軽に手に入る喜びもたくさんあります。しかし、いつまでも変わらない喜び、自分の人生を変えるような喜び、あるいはこれからどんなことが起きようとも、それを乗り越えることができるほどの喜び、そのような喜びは、決して手軽に手に入れることはできないのです。

クリスマスの夜、長い旅を乗り越えて、占星術の学者たちはいつまでも変わらない喜び、自分の人生を変える喜びに包まれました。私たちが神様の愛を受け、神様のみ旨を求め、与えていく道を歩む時、クリスマスの本当の喜びが与えられるのです。

(鎌田在弥)





## クリスマス献金

2018.11.28

☆クリスマス献金って何??ということ子どもたちと考えてみました!

クリスマス献金とは、クリスマスの喜びを分かち合い、神さまの恵みへの感謝を覚え、特別に捧げられるものです。

クラスで「クリスマスはどういう日?」と聞くと、「プレゼントもらえる」「サンタさんが来る!」と発言した子の後に「えっ?!イエスさまのおたんじょうびだよ!!」と言った子がいました。「何??」という顔をしている年少さんに、年長さんや年中さんが「うん!そうだよ」と教えてくれていました。みんなでクリスマスの本当の意味を考えることができました。

その喜びの日を迎えるまで、私たちも嬉しいこと楽しいことがあった時「かみさまありがとう」と献金をおささげしたり、世界中で困っている人にも私達が何かできたらいいね、という話もできました。是非ご家庭でも子どもたちと「ありがとう」の恵みを見つけたり、世界中で困っている人たちのことを思い、何かできることはないかなど一緒に考え、その思いを献金に託していただけたらと思います。

☆献金箱を作りました!

<ねらい>

- ・クリスマスを楽しみに待つ
- ・神さまからのたくさんの恵みに感謝する

上記のねらいをもってクラスのあつまりや自由活動中に作りました。



まず初めに紙コップにちぎった折り紙をのりで貼り付けました。手がベタベタになることが苦手な子や、折り紙を細かくちぎりすぎて時間がかかりかかった子もいましたが、どの子も頑張って貼ることができました。普段すぐにテープで貼り付ける子が多い為、とても良い経験ができたと思います。素材によって使う物を子どもたちが考えていけるといいなと思います。その後、星を飾ったり、色々な素材を使って飾り付けを楽しみました。子どもたちの感性が溢れるとてもステキなツリーの献金箱に仕上がりました。

クリスマス親子礼拝当日は、別の入れ物に移して献金を持ってきて頂いても構いません。礼拝後は、小物入れとしてずっと使ってもらえたらと思います。

(AKI)



## 年長あつまり



### 年長児懇談会

うんどうかいも終わり、讚美礼拝に向けた取り組みが始まる前に、年長児のおうちの方を対象とした年長児懇談会を行いました。懇談会では、最近の子どもたちの様子やあつまりでの姿を、5歳児の発達に絡めてお話ししました。また、4月からいく小学校ごとのグループに分かれてのグループトークの時間も設けました。残り半年の園生活をどのように過ごしていきたいかの情報交換の機会となったと思います。

懇談会後に提出していただいたアンケートを一部ですがご紹介します。どのアンケートも子どもたちのことを考えた、ステキなアンケートでした。

▶：幼稚園から ●：おうちの方から

#### うんどうかい 側転チャレンジについて

- 大人よりも同年代のお友達からのアドバイスの方が何倍も効果的でした。お友達からのアドバイスを聞き、それを受け入れることができ、さらには成功体験までに至ったことが嬉しかったようです。
- 側転ができないという悔しさは今でも口にするところがある。今後も練習を続けて“練習すると必ずできるようになる！”という経験をさせてあげたい。
- 側転ができるようになっただけでなく、よりきれいに回れるように練習したり、片手で回ることに興味を示したり。やって終わりではなく、物事を追求することを覚えてきました。
- 子ども自身が「最後まで諦めない！」と運動会でも吠えていたので、自分たちが考えたスローガンを達成しようとしていたのだなぁと嬉しく思いました。
- 家で楽器の練習をするときも、「諦めない」とよく言うようになりました。

▶ 懇談会では、うんどうかいの年長スペシャルの裏話もしました。「諦めない」という想いを強く持つことのできた経験になりました。また、子どもたちは今でも側転へのチャレンジを続けていたり、身体を動かすことが大好きになったり、と遊びにも変化がありました。

## 最近の遊びについて

- 個人でなく、皆で何かを成し遂げることにごく意識が向いたと感じます。
  - クラスの団結力も深まったのか、クラスのお友達について話すことが多くなりました。女の子のことだけではなく、男の子のお友達とも積極的に関わることができるようになったようです。
  - 外遊びが増えました。楽しかったようで、ドロケイや王様ドッジがお気に入りです。
  - うんどうかいから年長の他のクラスの子たちと遊ぶ姿を見たり、本人の口からも今まであまり出てこなかったお友達の名前が出てくるようになり、年長のつながりが強くなった気がしていて、とても嬉しく思います。あと半年、たくさんのお友達と遊んでほしいです。
- 2 学期も半ばを過ぎ、年長さん同士の繋がりが強くなり、大勢で一緒に遊ぶことが増えてきました。遊びこむ姿は年長さんならではのですね。

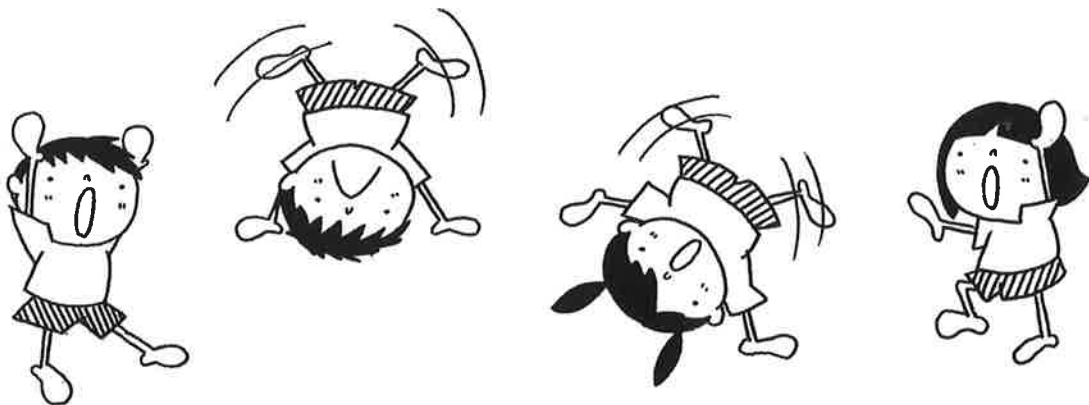
## ウィピングを通して

- 本当に子ども本来を写し出してくれる作業で弱点がよく見えました。でも、弱点ばかりに目が行く“私”も自覚しました。良いところもぐんぐん伸ばしてあげられるような言葉がけをしていけるようになればと思います。
  - とにかく集中力が続かず…何度も失敗を繰り返しましたが、それでもあきらめずに最後まで目標に向かってやり遂げるという貴重な体験をさせていただきました。自信につながったと思います！
  - ウィピングは下の子が欲しがり、「これは年長になってからね」と誇らしそうに伝えていました。ちょっと難しい課題をやり切る達成感があったようです！！
- 春から楽しみにしていたウィピング！既にウィピングの活動についてはエントランスのドキュメンテーションやホームページでも紹介しました。お子さんと向き合うきっかけとなったウィピングは、おうちの方にとって子どもたちにとっても大切な時間となったようです。

## 年長懇談会に出席して

- レジユメに書いてある通りの成長・変化をしている我が子が面白く感じました。

- 今の我が子に何が足りなくて、それを補うためにどう接していこうかを考えるいい機会となりました。
  - 5歳児の発達の話では、子どもの育ってきた力を改めて実感することができたし、まだ出てきていないなと思うところは家庭でも意識していきたいなと思った。
  - 大人ではなく周りの友達の力を借りながら、方向を考えられる姿がよく見られるようになってきたのは、成長を感じるし、彼なりに5歳の道を歩んでいるんだなと微笑ましく思います。
  - 時に言いすぎたり間違えたことを言ったりすることもあるかと思いますが、そんな時は立ち止まって色々な意見を聞き、正していける、そんな学べる場や“みんなでやったね、できたね”という達成感をこれからも大切にしていきたいなと思います。
  - 一人ひとり個人として、クラスという集団また年長というグループなど様々な視点から子どもたちの成長を見守ってくださることがわかってよかった。
  - 年少・年中の時もこういった3歳・4歳の成長や園での取り組みを交えて教えていただける機会があると、もっと不安が解消されていいと思います。
- 
- うんどうかいの次は、讚美礼拝だとまた心を新たに頑張ると言っていました。
  - “自分でやってみよう”とする気持ちが大きくなってきたようで、お風呂での体や髪の毛も自分で洗うようになりました。幼稚園の支度や帰宅後のリュックの片付けも何も言わなくてもするようになり、頼もしいです。
- 懇談会では、5歳児の発達についてもお話ししました。自分でやってみる、ということは子どもたちの自信にダイレクトに繋がります。子どもたちが自信を持って小学校へ行けるように、年長のあつまりでの活動を考えていこうと思っています。



## クリスマスに向けて

2学期最後のビッグイベントであるクリスマス。年長あつまりでは、子どもたちと一緒にこれまでのクリスマスを思い返したり、聖書のお話をしたりしながら、少しずつ準備を始めました。

讚美礼拝の役決めでは、子どもたち一人ひとりの希望を聞いた上での役決めを行いました。もちろん、自分の希望の役になれた子もいますが、そうでない子どももいます。役が決まった後に、子どもたちに「讚美礼拝の役は私たち保育者が決めたものではないこと」「神様が一人ひとりにぴったりの役を選んでくださったということ」「だから自信を持ってやってほしいこと」を伝えました。子どもたちの役は、どれも大切なものです。讚美礼拝に向けた取り組みを通して、子どもたち一人ひとりが、与えられた自分の役の大切さを知り、自分自身が大切な存在であることを知り、讚美礼拝当日には自信をもって役を行えるようにしていきたいと思っています。

(めぐみ&ゆか)



キリスト教ならではの言葉はいくつかあります。最近では、巷でも取り上げられるようになってきた事で、聞き覚えがあるという人が増えているのではないのでしょうか。しかし、その意味を知っている人はどのくらいいるのでしょうか。是非、この機会に知っていただきたいと思います。

**アドベント**という言葉の前号のこどもニュースで紹介しました。今回は続編としてクリスマスに関するものについてご紹介します。

### \*アドベントクランツ\*

クランツは花、または葉の環状の編み物・花環・葉環の意味です。常緑樹の枝で輪を作り、ロウソクを立てたものです。

常緑樹の緑の環は神様の永遠を、ロウソクはキリストが世の光として来られる喜びを意味しています。常緑樹にはモミの木・ヒイラギ・スギ・マツ・ヤドリギなどがよく使われます。



### \*アドベントカレンダー\*

アドベントの期間、一つずつカレンダーをめくるようにし、イエス様を心に迎える準備をするものです。市販されているものは、12月1日から1日ひとつ、日にちの部分を開けていくものが多いようです。

幼稚園では、ひとり一つずつ作った飾りを毎日飾りつけていき、全員が飾り終える日が讃美礼拝の日となるようにしています。今年は切り紙と通称くるくる棒と言われている折り紙を細く巻いたものを組み合わせた飾りを作っています。

「今日は誰が飾るのかな…」 「私はいつ飾るのかな…」とワクワクした気持ちで『待つ』ことこそ、遠い昔ユダヤの人々が、救い主の到来を待ったのと同じような思いに繋がるのではないのでしょうか。




### \*ハレルヤ\*

ハレルヤとは、ヘブル語で『主をほめたたえよ』という意味です。ヘンデルのメサイアに出てくる「ハレルヤコーラス」は、どこかで聞かれたことがあるのでは。

幼稚園では、讃美礼拝での一つひとつの事柄を子ども達に伝えていく時間を「ハレルヤ」と呼んでいます。それは「本当のクリスマスを知る時間」「自分に与えられたクリスマスの役割について知る時間」そして「クリスマスの喜びをありがとうと賛美する時間」と考えています。

ハレルヤが始まると『クリスマスブック』というイエス様生誕のお話が書かれたオリジナルブックを年長児から順にクリスマスが深まるにつれ、年中児・年少児・満3歳児ともられます。ご家庭でも一緒に読んだり、讃美歌を歌うなどして楽しみながらクリスマスまで準備をして下さい。また幼稚園でも使いますので、毎日リュックに入れてきて下さい。

(まさえ )